特定医療法人中央会
介護老人保健施設　ローランド

ローランドだより

No.8

住所：尼崎市潮江２丁目１番10号　　電話：06-6499-8500
H　P：http://www.chuoukai.or.jp　　編集：ローランド広報委員会

うまくとれるカナ～♪

7/16 そうめん流し

手作りのそうめん流し♪

竹は甲山の神呪寺まで

取りに行ってきました(^_^)！

おいしいなぁ(^_^)！

津本先生のひとりごと No.55

手前どもの恥をさらすようですがパート２

実は当施設では一部の利用者に対して身体拘束をしています。内容は車いす使用時に立ち上がりを防ぐ『安全ベルト』と、ベッドの『4 点柵』が主です。見守りだけではどうしても安全が確保できないケースに限ってしていますが、『身体拘束ゼロ』をうたっている施設が多くなる中どうしたものかと考えています。そのため毎月拘束解除委員会、人権擁護委員会を開き、個々のケースで継続の是非を検討しています。言い訳になるのですが家族が絶対骨折させてくれるなと拘束を希望されるケースもあります。120 人余りの入所高齢者が居るわけですから、残念ながら過失・無過失に関係なく骨折事故は年に何件かは起こります。自宅で骨折すると誰の責任でもなくて、施設での骨折は 100%施設の責任というのはおかしいのですが、家人様にとっては施設内事故の場合、怒りの矛先は当然施設に向けられ（その気持ちも理解できます）、当方に過失がないときでもなかなか納得いただけないのが現状です。一方、骨折事故に遭遇したスタッフは過失の有無にかかわらず無力感、罪悪感、恐怖感を抱き心にトラウマを持ちます。当施設の年間の骨折発生件数は 5 年ほど前まで年 12～15 件あったものが減少し、ここ 2 年では年 4 件となっています。頑張っている数字だと思いますが骨折した本人・家族にとってはネガティブイベント以外何物でもなく心情は十分察せれます。『怒る家族 VS 腰の引けた施設スタッフ』そんなこんなで身体拘束の悪循環が続くわけです。

使用者が座面から立ち上がると自動でブレーキがかかる『すん止メ君』という車椅子用後付ブレーキストッパーがあります。優れモノらしいです。それで事故がゼロになるとは思いませんが、介護者に余裕が生まれ見守りの視野範囲が広がるのではと期待します。事故がつづき、心が折れそうになったとき凄く欲しくなります。

日	月	火	水	木	金	土
8 月の予定					1 あしや音楽療法 2F	2
3	4 盆踊り 4F	5 マッサージ	6 マッサージ 盆踊り 2F	7 マッサージ	8	9
10 喫茶ウィーク ～8/23 まで	11 折り紙 1F 盆踊り 3F	12 マッサージ	13 マッサージ 音楽療法	14 マッサージ	15	16
17	18 盆踊り 4F	19 マッサージ	20 マッサージ 音楽療法	21	22	23
24/31	25 盆踊り 3F	26 マッサージ	27 マッサージ 音楽療法	28 ｴﾚｸﾄｰﾝ 3F	29	30